飯田女子短期大学紀要 第33集，277-283，2016

造　　形

青 木 千恵美

作品１刺繍部分

作品１：毛布 Seitaka　　サイズ：140×190㎝
素材：羊毛（上チェビオット種，下ヘブリディアン種），天然染料（セイタカアワダチソウ　刺繍部分）
技法：紡ぎ，染め（刺繍部分），織り，縫い　　制作年：2015年

「異なる２種類の織物を取り合わせる」をテーマとして制作を重ねている．

作品１では，強くフェルト化した厚みのある織物と薄手の織物を上下に合わせた．無地の織物と向き合う中で，繊細な変化を加えるアイデアが引き出され，布の裏，コーナーに小花のイメージで細かい針目の刺繍を加えた．

茶色の厚地の織物は豊穣な土のように想われ，やがて小さな花が群れ咲くところへと変わってゆく．そんな想いをめぐらせ，ステッチを重ねた．

作品２では，無地の生成りの織物に格子柄の織物を合わせた．生成りの織物の端は，経糸を抜き，不揃いの表情を強め，格子柄の織物は縁の形を丸く整えた．部分の仕上げから，あたたかみと穏やかな印象を全体に広げてみ

作品２部分

作品２：毛布 Re＃27ーPer／＃70ーJacob　　サイズ：145×190㎝
素材：羊毛（上ペレンデール種，下ジャコブ種），天然染料（刈安），合成染料
技法：紡ぎ，染め，織り，縫い　　制作年：2016年

たいと考えた．

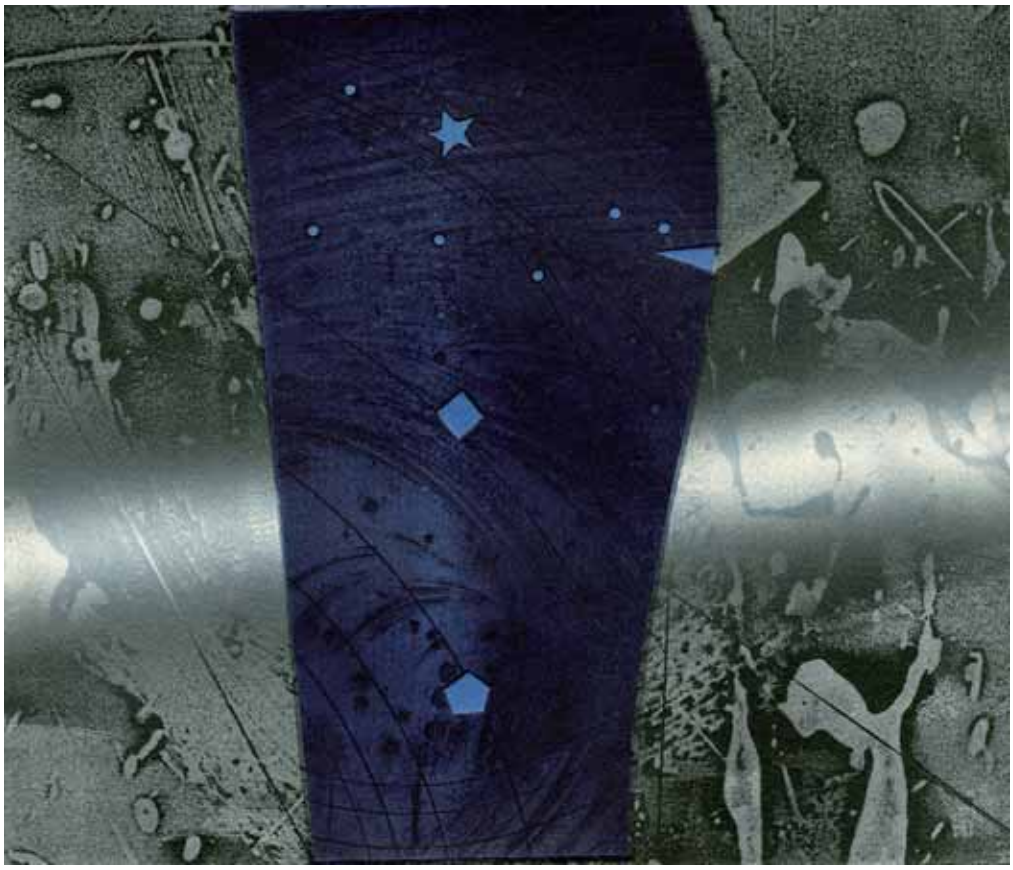
やがて生成りの織物は雪に，そして格子柄は出を待つ春の彩りに見立てられるようになった．「見立て」を通して，制作の方向性が確かなものになってゆくように感じられた．

羊毛の持つナチュラルカラーの強さと深み，生成りと彩りの対比，それぞれの織物の魅力が失われることがないように，全体と部分の関係を確かめながら，制作を進めた．

こうして仕上られた布は，現実と過去のイメージを併せ持つ．

目の前にある織物の色彩や手触り，織物の持つ雰囲気のようなものと私自身の記憶にある風景，体験が重なり，交わり，再生されたイメージ，といってもいいのかもしれない．

北 野 敏 美



作品：「A view-1403」サイズ：(17×20cm)
素材：洋紙，和紙，インク
技法：銅版画（エッチング，アクアチント，コラグラフ）
制作年：2015
第５回東京国際ミニプリントトリエンナーレ展入選

版画コンクール

作品をつくることを通して表現がどのように世に問うているかが重要なことと考える．関わった主な３つの展覧会について述べたい．

第５回東京国際ミニプリントトリエンナーレ2015(多摩美術大学主催：会期2015年9月26日から11月8日　会場：多摩美術大学美術館)

1995年から４回にわたって開催されてきた．版画の特性を生かし作品サイズをＡ４大におさめることによって世界中から簡便に参加が可能になることで始まった．大学が試みる数少ない国際公募展である．

今回は世界84カ国から2,174名の応募があり324点が入選した．世界の版画作品の最新作の紹介とともに素材・技術・表現などに関する学術的なデータ集積も行われ、コンクールの試みとしては規模，質ともに世界的な注目を集めている．

作品：「Flow-1515」サイズ：(24.8×18cm)
素材：洋紙，和紙インク
技法：銅版画（エッチング，アクアチント）
制作年：2015
アワガミ国際ミニプリント展2015 吉野川市長賞受賞

アワガミ国際ミニプリント展2015－世界唯一和紙の版画公募展－（主催：阿波和紙伝統産業会館　会期：2015年10月10日から11月8日　会場：徳島県吉野川市インペアートスペース）

2013年に引き続きビエンナーレ方式で開催された２回展，伝統的な和紙作りの技法と印刷技術が和紙という限定された素材に作家の試行錯誤が試される．和紙は木版だけでなくリトグラフや銅版画にも特有の美しさを醸し出し，あらゆる版種に対応している．世界51カ国756名1,000点を越す応募があり19点の入賞者が選ばれた．近年和紙はユネスコの無形文化遺産にも認定され，和紙をグローバルに世界に広げる意味でも再び脚光を集める展覧会となった．

作品：「水紋に浮かんだ日常-1435」
サイズ：107.5×78.5cm
素材：洋紙，和紙，インク
技法：銅版画（エッチング,アクアチント,コラグラフ）
制作年：2015　第14回南島原市セミナリヨ現代版画展長崎国際テレビ賞受賞

第14回南島原市セミナリヨ現代版画展
（主催：南島原市セミナリヨ版画祭実行委員会期：2015年2月28日から3月8日　会場：南島原市ありえコレジヨホール／雲仙ビードロ美術館／長崎県美術館）

南島原市が天正の使節団の時代に日本で初めての銅版画が印刷されたことを顕彰し，歴史と文化のあふれるまちづくり事業の一環として開催されている現代版画展．応募総数9,231点，83点の入賞者が決まった．

その他の参加展覧会

日本現代版画展：ロシアエカテリン美術館を皮切りに各地を巡回，モスクワ東洋美術館を最終展示し一部作品を寄贈．日本人13人の作家が出品．

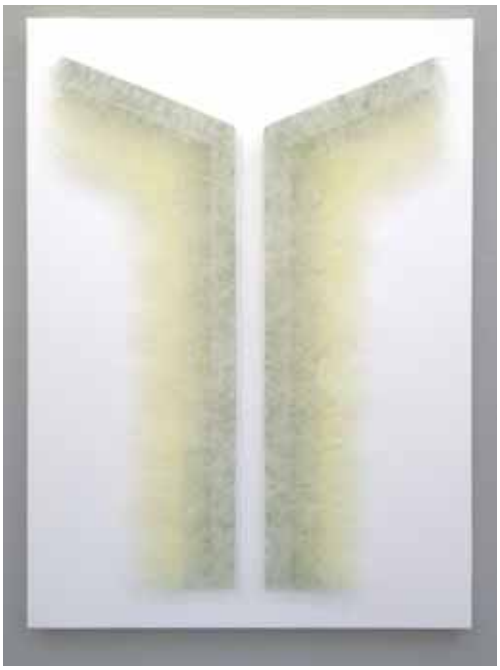
日本アートフェスティバル in Horice
チェコのホジチェ市で９月12日から28日まで行われた．日本の版画家５人，他に日本画，陶芸，ピアノ，ビオラ演奏がコラボされて企画された．

田 中 洋 江

タイトル：光 vii
サ イ ズ：230×150cm　2点
素　　材：ジュート，ラミー，ゴートヘア
技　　法：オリジナルテクニック
制 作 年：2015年

タイトル：光 vi
サ イ ズ：20×20×5cm
素　　材：ジュート，ラミー，ゴートヘア，板
技　　法：オリジナルテクニック
制 作 年：2015年

タイトル：光 viii
サ イ ズ：41×62×5cm
素　　材：ジュート，ラミー，ゴートヘア，板
技　　法：オリジナルテクニック
制 作 年：2015年



タイトル：光 ix
サ イ ズ：73×100×5cm
素　　材：ジュート，ラミー，ゴートヘア，板
技　　法：オリジナルテクニック
制 作 年：2016年

「あること」と「ないこと」の間の問題をテーマに，2014年からは墨以外の色を使い制作している．このテーマの中で，「光」シリーズは東日本大震災で苦しんで亡くなった動物たち，今も苦しむ動物たちを思い，世界中の全ての恵まれない動物たちのために祈る日々が続いたことで，「希望の光」という意味をこめている．

「光 viii」は，２枚の布を約２㎝離して前後に重ね，手前の布の一部に境界線のはっきりした穴をあけ，その穴から奥の布を覗かせ，奥行と色の変化が感じられるよう制作した．「光 vii」はインスタレーションとして空間に展示するもので，「光 vi」「光 viii」「光 ix」は，木製パネルで壁に展示するものである．